

基本的な考え方

○科学館が持つべき役割・方向性 ～基本計画より抜粋～

北九州市の 未来の担い手育成	体感型で科学を楽しむ 多彩な活動	地元企業・大学 との連携	周辺施設との 東田エリア連携
科学をテーマにしたコミュニケーションをきっかけに、新しい発想や文化を生み出す活動拠点となることで、 未来のものづくりの担い手となる人材の育成 を目指します。	体感型展示やワークショップなど多彩な活動をもとに、教える展示ではなく、来館者の疑問「なぜ？」を引き出しながら、 科学の面白さ、身の回りの科学への視点を育てます。	展示や教育活動を通して、市民と企業・大学の独自の技術と人材（研究者・技術者）とが交わることで、 ものづくりのまち北九州市の未来を創造する、人と技術の発信拠点 となります。	博物館群や周辺施設との連携・役割整理を行い、エリア一帯での展示体験ストーリーを構築。 東田地区全体が科学教育をリードする拠点となる ことで、国内外からの教育旅行も誘致し周辺の賑わい創出を図ります。

○新科学館における展示設計方針

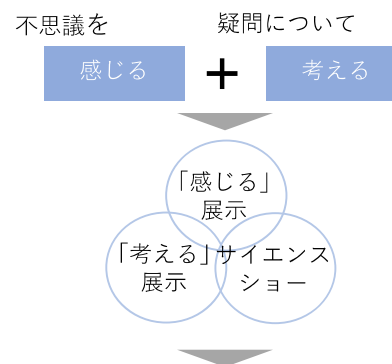
北九州のまちと科学がつながる



ALL北九州で未来につながる科学館

人々の暮らしを支える科学技術を、地元企業・大学の協力のもと紹介。
北九州のまちのなか、暮らしのなかに応用されている科学技術に触れながら、地元北九州の今を知り、未来を描く場をつくります。

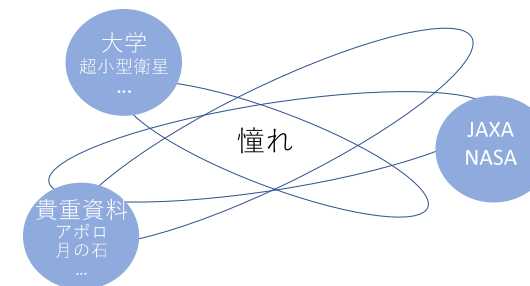
不思議を感じて考える



楽しみながら科学的思考を養う科学館

不思議な科学現象に対する驚きや疑問を入口に、現象の裏にある原理原則を体感展示を通して紐解いていくことで、科学的思考の基礎である観察力・実験力・考察力を養います。

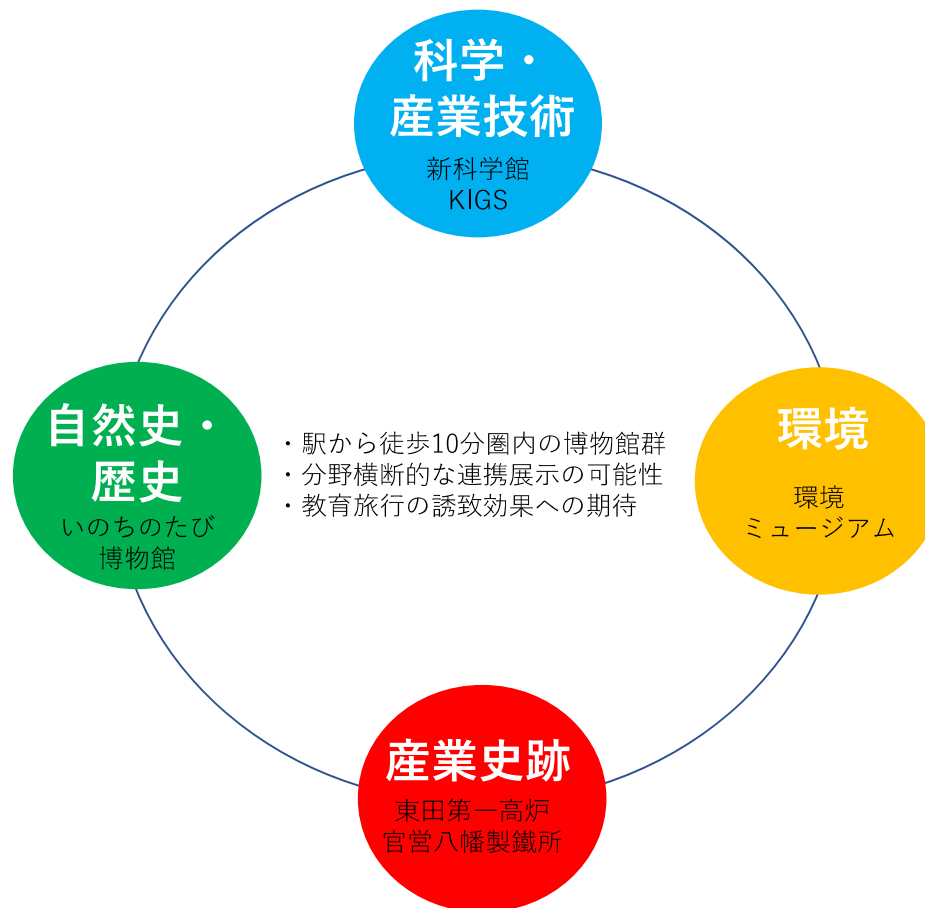
宇宙への憧れを育てる



憧れを受け継ぎ育む科学館

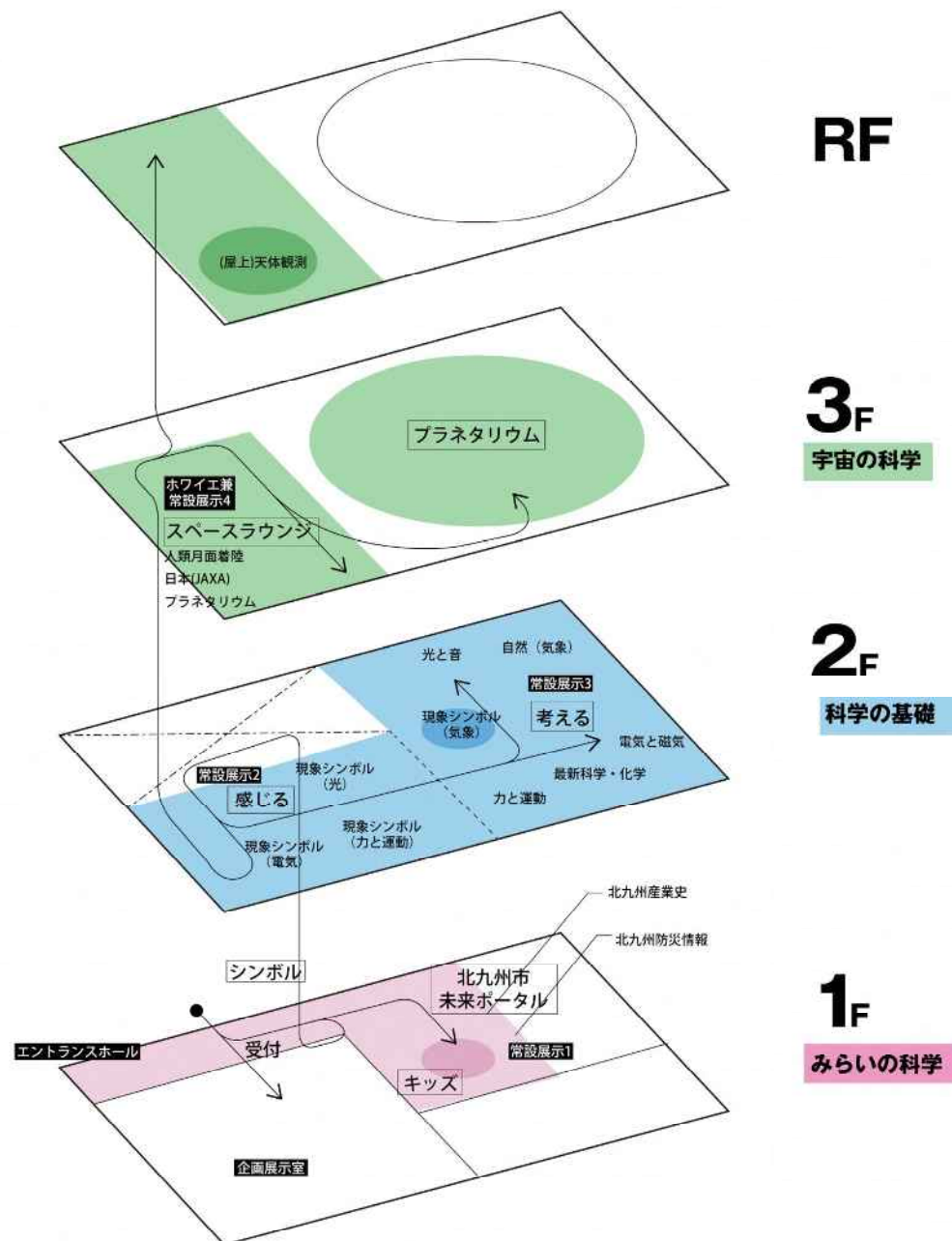
スペースワールドや児童文化科学館の展示・資料、地元企業・大学の技術を最大限に活かしながら、北九州市から「宇宙」へのあこがれを発信する科学館をつくります。

エリア全体が「総合博物館」として機能する 東田ミュージアムパーク



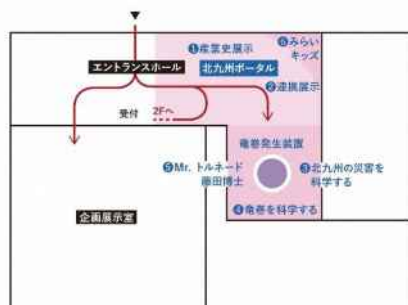
展示 内容案





注意：検討プランのため、今後変更となる場合があります。

■ 展示イメージ



■展示構成案

北九州ポータル

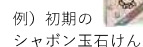
- ①産業史展示
- ②連携展示
- ③北九州の災害を科学する
台風、大雨、地震、火災、防災など
- ④竜巻を科学する
- ⑤Mr.トルネード 藤田博士
竜巻を解明せよ！ 藤田博士の3つの研究
- ⑥みらいキッズ



北九州産業史を過去・現在・未来で一望。日本の産業の中で重要な役割を果たしてきた北九州の技術の強さを実感。

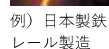
①産業史展示

北九州にゆかりのある企業の過去の
エポックな技術や製品を紹介します。



② 連携展示

北九州の企業や大学と連携して現在、
未来の技術を展開します。



例) ゼンリン
時空間地図情報

例) 三菱ケミカル
バイオエンブラ
「DURABIO」



例) 北九州市
防災ガイドブック



例) 西部ガス
マイコンメーター復旧体験

※画像は各社HPより引用

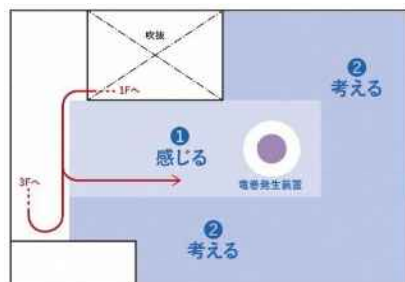


例) 藤田博士ゆかりの
観測用器具・直筆スケッチ

※パース・展示項目はすべて検討プラン段階での例示であり、今後変更となる場合があります。

科学の基礎 不思議を感じて考える 楽しみながら科学的思考を養うフロア

■平面構成



■展示構成案

①「感じる」展示

展示室の導入として直感的に科学の現象に驚く展示を展開し、期待感を高めます。

気象の科学シンボル
力の科学のシンボル
電気と磁気の科学シンボル
音と光のシンボル

②「考える」展示

科学の原点である不思議と思う心を育み、疑問に思う現象を科学的視点で考える。展示を通して「観察→仮説→考察」という科学的思考を養います。

力と運動の科学
光と音の科学
電気・磁気の科学
気象の科学
最新科学・化学

※パース・展示項目はすべて検討プラン段階での例示であり、今後変更となる場合があります。

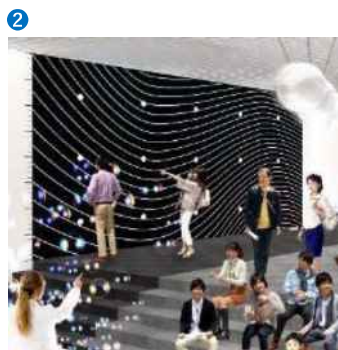
■展示イメージ



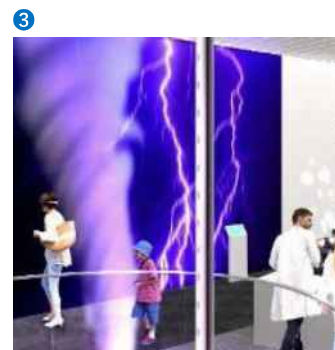
感じる展示



力：ビッグペンデュラムウェーブ



音：ビッグ音波



気象：竜巻・雷・雲など

④サイエンスショー

展示室内にサイエンスショースペースを確保するとともに、展示室のあちこちでイベント的にショーができるよう運営に配慮した設計とします。

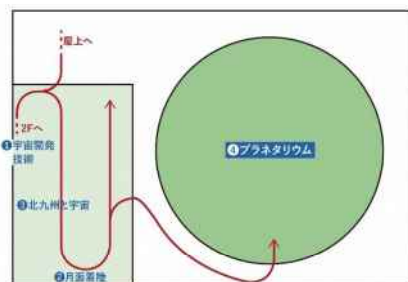


サイエンスショー（化学実験など）

3階 宇宙

スペース・ラウンジ 宇宙への憧れを育てる 北九州らしさを受け継ぎ育むフロア

■平面構成



■展示構成案

①宇宙開発技術

ゴダード模型、チャレンジャー模型
宇宙開発年表など

②月面着陸

アポロ宇宙船実物・レプリカ
宇宙有人活動での実物資料など

③北九州と宇宙

人工衛星模型、小型衛星紹介など

④プラネタリウム

■展示イメージ



①宇宙開発技術

世界と日本の宇宙への挑戦の歴史を解説し、
宇宙開発技術そのものへの興味・関心を高め
ます。



例) チャレンジャー模型

※旧スペースワールド資料 (日本製鉄寄贈資料)

②月面着陸

月面着陸を目指した技術・情熱の高ま
りを紹介。貴重な現物資料を通じて、
当時のロマンを感じます。



例) アポロ司令船

※旧スペースワールド資料 (日本製鉄寄贈資料)

③北九州と宇宙

最新の宇宙開発技術を地元大学の取り組
みとともに学び、北九州から宇宙へと飛
び立つチャレンジ精神や希望を養います。



例) 九州工業大学の超小型衛星

(九州工業大学 超小型衛星試験センターHPより)

④プラネタリウム

普段見えている身近な夜空の
広大さを伝え、宇宙への期待
や夢を膨らませます。

※パース・展示項目はすべて検討プラン段階で
の例示であり、今後変更となる場合があります。